

# 紙辞書を使った語彙・コロケーションの指導とその効果

—英語で伝える力と自ら学ぶ力を育てる『和英表現ノート』作りの実践—

東京都／明星大学経済学部 講師 内田 富男  
申請時：千葉県／渋谷教育学園幕張中学校 教諭

## 概要

「紙辞書」, 「英作文」, 「語彙」, 誰もがその指導の意義を認めてはいるものの, 教室ではなかなか手が回らない。本実践では, 公立中学で英検講座を受講する約70名の2年生を対象に, 1) コロケーション重視の語彙指導, 2) 紙辞書を活用したノート指導, 3) フリーライティングの指導, を試みた。年間およそ20時間の講座では, 教科書・英検コーパスから作成した教材と紙辞書, 作文シートを使って指導した。その結果, 敬遠しがちだった紙辞書をより身近なツールであると感じ, コロケーションに興味を持つ生徒が増えた。また, モデルを参考にしながらでも英語で書く機会を得て, 表現意欲が昇華された。なお, 正課の授業とあわせて, 週7時間の学習の結果, 2年終了時にはほとんどの受講生が英検3級以上に合格した。本研究から, 実際の授業実践を通して, 英語を学ぶ動機と意欲, 英語に触れる機会の大切さが確認され, 困難な学習課題に挑戦させることの意義が示唆される。

## 1 はじめに

「ゆとり教育」の流れの中で, 中学校の英語の授業は原則週3時間であるが, 1時間だけ授業が増えるとしたら, どのような指導ができるだろうか。本実践では, 公立中学校の英語集中課外講座で中学2年生を対象に月3時間, 1) 辞書指導, 2) コロケーション重視の語彙指導, 3) フリーライティングの指導, を試みた。

実践に先立ち, 「得意になりたい英語(4技能)は?」と生徒たちに尋ねてみると, 「話すこと」(23),

「書くこと」(16), 「聞くこと」(10), 「その他」(8), 「読むこと」(3)の順であった(括弧内は回答数, 有効回答60)。彼(女)らの答えから, 英語で表現できる(話せる, 書ける)ようになりたいと思っていることがわかった。

この思いを, 教育によって生徒自らが実現可能な「目標」にするには, 教師はどんな手助けができるのだろうか。本報告は, その1つの答えを模索した実践の記録である。以下, 本実践の具体的な内容を, 授業計画と授業実践, 学習者の分析, 授業評価, 指導法と教材, テストとアンケート調査, 作文の分析結果の順に述べていく。

## 2 本実践の意義

### 2.1 コロケーション重視の語彙指導

初めに, 先行研究を参照しながら, コロケーション重視の語彙指導の意義について述べる。collocationという言葉はよく聞かれるが, これは慣習的に共に用いられる連語である。その詳細な定義はさまざま( Sinclair, 1991など), lexical bundle, multi-word unit, phraseological unitなど類似の概念, 用語も多い。日本語でも, 熟語, 慣用句, 成句, 慣用連語などがあり区別は難しい。広義には, 高頻度に用いられ, 結びつきが強く, 特定の位置関係と距離を持ち, 意味予測可能な語の連続体(松野・杉浦, 2006)と定義できる。

“You shall know a word by the company it keeps” (Firth, 1957: 194)と言われるように, 語の正確な意味は2語以上の固まりによって理解できる場合が多

い。Pawley & Syder (1983) によると、母語話者は脳内に大量の語の連続体を蓄積しており、それらが新たに語彙結合を作る際の典型となる。しかし、日本人学習者の場合、不自然な、あるいは誤った語の組み合わせを作ってしまうことがある。Wolter (2006) は、narrow room (正しくは small room) の例を挙げ、small という単語を知っているはずの学習者 (日本人大学生) が room との語彙結合において、「狭い部屋」という日本語のコロケーション知識を適用している、と説明している。また、日本人中高生が書いた自由英作文には、法助動詞 could と動詞 enjoy の単語連鎖に関して不自然な用例が多く見られる (内田, 2008: 53-55)。

日本人学習者がこのような基本語でさえ不自然な組み合わせを創作するとなると、語彙サイズの拡張につれて、日本人特有の英語表現をさらに生み出す。学習者は単語レベルの語彙知識だけでなく、語彙量にふさわしい正確なコロケーション知識と共起語を適切に選ぶ語彙選択能力が求められる。そして、コロケーション知識とその運用力を身につけさせるには、学習の初期段階から語のつながりを意図的に指導するなど、計画的な指導が必要である。コロケーション指導は、英語の基礎力と実践的なコミュニケーション能力を養うための大切な指導領域である。

## 2.2 中2の自由英作文指導

表現力を養うためには、まず表現する実体験をさせることが不可欠である。経験を積み重ねて生徒は成長していく。しかし、中学生にとって自由英作文は、決して易しい課題ではない。教室でのライティング指導は制限作文や部分英訳、短い和文英訳、1, 2文程度の英作文といった活動が主で、自分の意見や考えをまとめて伝えるような活動は、頻繁には行われていないだろう。

しかし、中学校学習指導要領の「書くこと」の目標は、「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる」ことである。また、「言語活動」では、下記のように感想や意見、自分の考えや気持ち、自分の意向を伝える英文を書くことを指導することになっている。

(ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと。

- (イ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想や意見などを書いたりすること。
- (ウ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと。
- (エ) 伝言や手紙などで読み手に自分の意向が正しく伝わるように書くこと。

(文部省 (1998) 『中学校学習指導要領』)

中学校修了までにこの目標に到達するには、まとまった文章を書くための段階的な指導が必要である。この考えをより明確にするために、本実践で行った英作文活動に関する2つの特徴をあらかじめ述べておく。まず、本実践の英作文は自由英作文を書く過程で必要となることの一部を擬似体験するライティング活動である。2番目に、まとまった英文のモデルなどを参考にしながら、いわゆる「英借文」の活動を通して、作文過程を体験する活動である。書き手は、作文の過程で、構想、下書き、修正といった活動を頭の中で自然に行っているが、あえて学習活動あるいは指導過程として顕在化させない。むしろ、頭に浮かんだ考えを、英語の単語やフレーズ、表現などを探しながら、模索、あるいは模倣する過程を体験させたい。書く経験をし、それを積み上げていくことによって、書くコツを発見する。書く意欲を育てるために、既に最も基礎的な文法や語彙を学習した中学2年生に対して自由英作文に挑戦させてみるのである。

## 2.3 紙辞書指導で自立的学習支援

近年、小学校では国語の辞書引きブームである。深谷 (2006) は、「自分から学ぶ『勉強力』をつける」ためには、辞書引き学習が大切である、と辞書活用の意義を述べる。この考えは外国語学習にもあてはまる。辞書は有用な学習ツールで、英語の辞書を使った指導例や辞書学習の意義に関する主張は少なくない。しかし、誰もが辞書の重要性を認めているにもかかわらず、教室内での辞書指導は敬遠される傾向にある (日台, 2009: 3)。高田 (2006) は、英語を自ら学ぶ自律した生徒を育てるには辞書指導は欠かせないと述べ、自立的英語学習と辞書指導の関連性を強調する。

近頃の生徒は、辞書で単語を引くと、訳語を見て、すぐに頁を閉じてしまう。国語辞典を使った、上記の深谷の辞書指導では、調べた語を付せん紙に書き、

次々に頁に貼っていく。本実践では、『和英表現ノート』という方法を試みる。これは、語義など紙辞書の内容、特に用例やコロケーション、表現をノートに転記させるといふ、古典的とも言える方法である。ただし、英和辞典から日本語を見出し語としてノートに記入させることに大きな特徴がある。今時の中学生は、このような地道な作業は敬遠しがちである。しかし、ノートに写すことによって、「文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと」（中学校学習指導要領「言語活動」）ができるようになり、最終的には、まとまった英文を書くことに生かされる。「語と語の区切りなどに注意」することは、裏を返せば、語のつながりを意識することでもあり、語の固まりに関心を向けたり、正しいコロケーション知識を身につけさせたりすることに役立つ。

## 3 計画と授業実践

### 3.1 本実践における目標と特色

本実践では、英語のコロケーションに関心を持たせ、正しいコロケーション知識を身につけさせること、英語で表現する意欲を高め、自立的学習能力・態度を身につけさせること、を目標とした。このために次の3つの指導を行った。

- 1) 単語レベルを超えた自然な英語に触れさせるためのコロケーション重視の語彙指導 [コロケーション指導]
- 2) 自ら学ぶことができる生徒を育てるための紙辞書を活用したノート指導 [辞書指導]
- 3) 自由英作文を通じて、英語で表現する学習経験をさせる活動 [英作文指導]

### 3.2 対象生徒および英語講座について

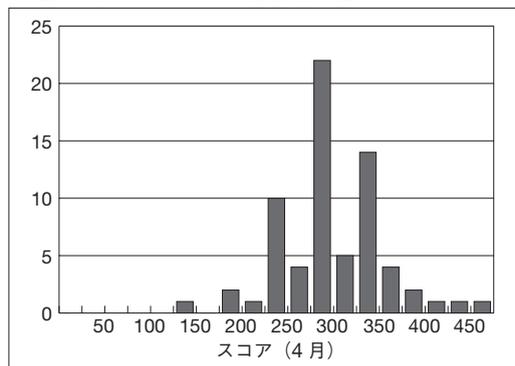
対象は、公立中学校の第2学年に在籍し、週4時間の正課に加え、原則月3回の英語集中講座（同校保護者団体主催）を受講している生徒である。年間で延べ70名が受講した。英語講座は希望制であるが、校内で開講され多くの生徒が受講している。土曜開講のためクラブ活動などで出席状況は生徒により異なる。なお、講座は英検合格を主眼としており、試験時期にはその対策に多くの時間が充てられた。また、毎回の講座は複数の指導者が異なる内容の授

業を担当しており、本実践の年間授業数は20回程度で、1回の指導時間は30分あるいは60分である。

#### 3.2.1 英語能力テストから見た実態

生徒の英語力を知るために、実践の開始時に、『英語能力判定テスト』（日本英語検定協会）の4レベルのテストの中からDレベルテストを受験させた。その結果は、全受験者（N=68）のスコア平均が294で、平均的には英検4級程度であった。標準偏差が56で、散らばりは大きい。度数分布（図1）を見ると、460（英検準2級相当）から100台（英検5級以下）まで、スコア範囲は広いが225から325の間に多くの生徒がいることがわかった。

▶ 図1：テストスコアの度数分布図



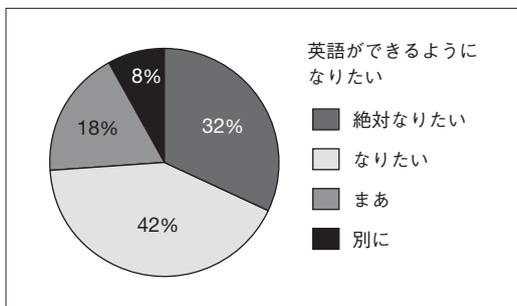
#### 3.2.2 アンケートから見た実態

学力以外の様子を知るために、アンケート調査を実施した。

##### ① 英語学習への構え（習得願望）

英語学習に対する態度を把握するために、習得願望を調べてみた。開始時点で、70%強の生徒が肯定的な回答であり、20%程度が否定的な回答であった（図2）。70%程度は積極的な参加が見込まれる受講者であり、20%程度はそうでないことが理解できた。

▶ 図2：習得願望

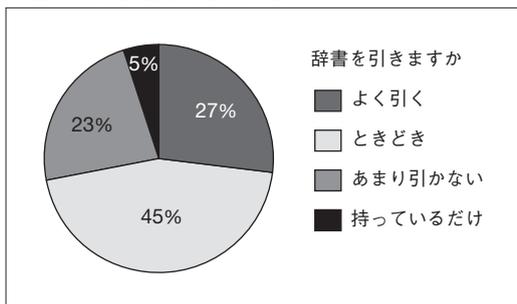


### ② 辞書使用頻度の意識

生徒が辞書をどの程度身近に感じているのかを知るために辞書使用頻度を尋ねた。結果(図3)は「ときどき」(45%)が最も多く、辞書はあまり身近な存在ではないようである。一方、「あまり引かない」と「持っているだけ」を足すと28%で「よく引く」(27%)という回答と割合が近い。

上記①と②の回答の割合がほぼ同じであることは興味深い結果である。

▶ 図3：辞書使用頻度の意識



## 3.3 授業の実際

本節では、授業の実際について教材例を示しながら、(1)辞書指導、(2)英作文、(3)コロケーション指導の順に説明する。年間の講座実施回数は、週1時間増の実質授業時数を想定して20回程度とした。1回の指導時間は、講座全体の都合により30分あるいは60分と日により異なる。年間の大まかな流れは上記(1)、(2)、(3)の順番となっているが、授業展開によって、例えば、辞書指導の期間にコロケーション指導を行うこともある。

### 3.3.1 紙辞書とノート指導

この指導の目標は、ノート指導をしながら紙辞書に興味を持たせ、紙辞書に慣れさせることである。

指導内容は、紙辞書を使った基本語彙の復習と発展学習で、既習語、特に名詞・動詞・形容詞を取り上げた。教材は、教材コーパスを使って独自に作成した。作成方法は指導書付属のデータベースと英検コーパスよりコーパス分析ソフト(AntConc3.2.1w)を用いて、語彙リストを作成した(教材例1, 2(図4, 図5)参照)。

活動内容は、与えた目標語彙を辞書で検索させ、訳語を見出し語にし、訳語、綴り、連語、句例、成句、文例をノートに転記させることである。このねらいは、普通の授業で使っているノートの頁に、辞書で見つけたコロケーションや表現を写す習慣を身につけさせることだが、学習意欲の高い生徒には、特に『和英表現ノート』(教材例3(図6))という別の小さなルーズリーフに辞書のさまざまな情報を転

▶ 図4：教材例1：目標語リスト例1(初めの10語)

JE 表現ノート初めの10語				
1	あ	開ける	6	つ 使う
2	お	終わる	7	て 手伝う
3	し	閉める	8	で 電話をする
4	す	好きだ	9	べ 勉強する
5	た	楽しむ	10	ほ ほしい

▶ 図5：教材例2：目標語リスト例2(外来語)

借用語、外来語 (loan word) 50選—食生活編	
1	ice cream アイスクリーム
2	iced coffee アイスコヒー
3	asparagus アスパラ(ガス)
4	instant (food) インスタント食品
5	instant noodle インスタントラーメン
6	oolong tea ウーロン茶
7	omelete / omelette オムレツ
8	orange オレンジ
9	calorie カロリー
10	cabbage キャベツ
11	cookie / biscuit クッキー
12	grapefruit グレープフルーツ
13	cake ケーキ
14	ketchup ケチャップ
15	coffee 珈琲
16	glass コップ
17	convenience store コンビニ
18	sandwich サンドイッチ
19	seafood シーフード
20	stew シチュー
21	sherbet シャーベット

▶ 図6：教材例3：『和英表現ノート』の範例

JE表現ノートwith リッチー先生の作り方(例)

書き方 日本語を書く 英単語を書く	例1 <b>食べる(⇒食事をする)</b> eat	た
辞書の例から使 えそうなの表現 までできるだけたく さんです	<ul style="list-style-type: none"> <li>* eat breakfast リンゴを食べる</li> <li>* eat (at) have lunch 昼食を食べる</li> <li>* something to eat 食べ物</li> <li>* go out to eat 食事をして外食する</li> <li>* eat sandwiches for lunch 昼食にサンドイッチを食べる</li> <li>* eat at the restaurant レストランで食べる</li> <li>* eat with a spoon スプーンで食べる</li> <li>* eat &amp; hot たくさん食べる</li> </ul>	
翻訳句の熟語 おもしろいから書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>* eat up たいらげる</li> <li>* a big eater 大食家</li> </ul> 	
日本語を書く 英単語を書く	例2 <b>食事をする(⇒食べる)</b> eat, have a meal	し
辞書の例から使 えそうなの表現 までできるだけたく さんです	<ul style="list-style-type: none"> <li>* go out to eat 食事をして外食する</li> <li>* Where shall we eat? どこで食事しようか</li> <li>* eat out よそで食事する</li> <li>* a light meal 軽い食事</li> <li>* a big meal たくさんのごちそう</li> <li>* fix(prepare) a meal 食事の準備をする</li> <li>* have(eat, take) a meal 食事をする</li> <li>* at meals 食事の時に</li> <li>* eat between meals 間食をする</li> </ul>	
おもしろいから書く		

記することを勧めた。授業は、ノートの記入方法の具体的な説明をしたり、コロケーション指導を織り交ぜながら展開した。また、この活動は、単調になりがちなので、指定語検索の速さを競う「辞書速引き競争」や、フレーズ音読、チャンツを交えた「辞書用例音読」などの楽しめる活動を並行しながら行った。

### 3.3.2 英作文活動の実際

本実践における英作文活動の目的は、1、2文ではなく、まとまった量の英語で、自分の考えや意見を表現する経験をさせることであり、パラグラフライティングやエッセイライティングの指導ではない。形式や内容にかかわらず、とにかくモデルをまねしながらでも、知っている英語で書いてみることを目標としている。全く自信がなければほとんど丸写しでも構わない。こうした活動を何度か行い、徐々に英語で複数の文を書く習慣を身につけさせる。

#### <指導方法>

作文課題は、授業内に20分程度で、辞書を使わずに、決められたトピックについて書くことである。教材例4(図7)のような作文用紙には、日本語の導入的な指示文とモデル英文が示され、10行程度の罫線が引かれている。また、下のモデル文(「朝食

はご飯かパンか」の例)を見てわかるように、書けない語句は日本語で書いてもよい(参考: 投野, 2007b)。

▶ 図7：教材例4：作文用紙(『その後の浦島』)

準 題名前( )

みなさん、浦島太郎って知っていますよね。竜宮城から帰った浦島太郎はおじいさんになってしまいました。あの浦島は、その後どうなってしまったのでしょうか？ 今度は「その後の浦島太郎」についてお話を書いて欲しいです。彼は老人になると、すでに死んでしまったのでしょうか？ それとも、おわりにおばさんと結婚して30年も長生きしたのでしょうか？ あなたの独創的な浦島を作って下さい。わからない単語は日本語のままでいいです。若田君はこんなお話を書いてくれました。



**吉田賢造**  
Urashima Taro was very shocked. But he remembered his 冒險. He didn't give up. He thought, "I will write a book about my trip and sell it."  
He started writing his story and finished it after ten months.  
His book was very interesting. Many people bought it. The book was a best seller. Urashima became very rich. He bought a big house and married a beautiful girl. The girl 似ていた. Otohime-sama. He lived happily.

\*\*\*\*\*

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

#### <モデル文：「朝食」の例>

I usually have rice and お味噌汁 in the morning. But I don't like it. I like bread and milk better. Bread with butter and honey is very おいしい. Rice makes me fat. I don't want to be fat. I want to be slim. My friends say it is difficult. I am sad. Sometimes I don't have breakfast and feel hungry in the morning classes. Some boys in my class do 早弁. But I don't do it.

日本語の許容については、議論もあるだろうが、1) 自然な文章の作成を妨げない、2) 生徒の負担を軽減する、3) 書く意欲を持続させるなどの効用がある(金谷・谷口・小林, 1994: 62-63)。

実践期間中にこのようなタスクで4つのトピックを与え、自由英作文を書かせた。トピックは、「朝食」、「地震」、「恐ろしい夢」、「その後の浦島太郎」である。なお、意欲的な生徒には、モデル文のない作文用紙を配布し、授業内あるいは授業外に書かせた。なお、提出された作文は、大まかな添削後に返却したが、直後に、書き直しをさせることはあえてせず、数か月後に同じトピックで書かせ、自分の成長を実感させるようにした。

### 3.3.3 コロケーション指導

本実践では、語彙・コロケーションの指導のために、まず準備として教材コーパスを作成した。検定教科書指導書付属のデータベースから上記のコーパス分析ソフトを使って、語彙・コロケーション学習用教材を作成し、授業あるいは家庭学習教材として配布した。以下はその教材と指導例である。教材例5(図8)は、3年間分の教科書データベースから高頻度語である前置詞 in を含むフレーズを抽出し、リスト化したものである。課ごとに進む授業で扱う in の用法は通常1種類で、in という前置詞のイメージがつかみにくいが、このようにまとめて提示することで、in の全体像が理解しやすくなるだろう。ただし、未習の in の用法も含まれているので、ここでは、すべての生徒に対して完全な理解を求めることはしない。既習事項については、正課の授業での理解を確認し、定着をさせる。語彙力が不十分な生徒について、このような教材の中の未習事項は予備的導入と考えた。in の用法について、あたかも文法書で語法研究をするかのような細かい解釈的説明は避ける。そのような方法はむしろ、普通の中学生にとっては逆効果となる。一方、語彙力の高い生徒にとっては、in という高頻度語の用法について統

合的理解を促す機会となる。

授業の流れは、フレーズの意味を確認、あるいは必要に応じて解説し、フレーズやフレーズを含む例文を全員で繰り返して何度も復唱した。教材例を見てわかるように in の後続語(句)には時間、場所など、さまざまな語句が使われて、句の中の冠詞の有無や種類、in return, in front of のような成句も含めて教科書に出てくる(あるいは出てきた) in の用法を確認しながら、in のイメージを整理させる。in the United States, in Canada, in the evening, in 1952 のような平易な用法は問題ない。しかし、時間を表す表現でも in a day は in が不要な用例があり、理解は難しい。また、in the sun, in a loud voice, in the breeze のように、用法や共起語が難しくコロケーションだけではわかりにくい場合は、教科書本文の例文や前置詞句の被修飾語句(名詞や動詞)を含めたより大きな文脈を与え、板書しながら解説し、理解を確認した後、フレーズ音読をさせた。また、紙辞書指導と関連性を持たせるために、紙辞書で文例を確認させる場合もあった。

教材例6(図9)は、「単語の意味と用法を増やそう—基本動詞と相性のいい語(true friends って)が大切—」と題する基本動詞を中心とした語彙とコ

▶ 図8：教材例5：コロケーション指導用教材(出たがり、目立ちたがりや IN)

出たがり、	in a loud voice	in the evening
目立ちたがりや IN		
(139/1.42%) <sup>(注)</sup>	in front of	in my host family
in the evening		
	in Australia	in the restaurant
in the snow		
	in Sydney	in Canada
in high school		
	in it	
in 1952		
	in winter	< IN のまとめ >
in the United States		_____
	in fall	_____
in return		_____
	in the kitchen	_____
in Figure 2		_____
	in the breeze	_____
in a blue sky		_____
	in the sun	_____
in a day		_____
	in Tronto	_____
in the tree		_____

(注) 139/1.42%：教科書に出てきた回数／教科書の全単語に対する in の割合

▶ 図9：教材例6：基本動詞の多義性とコロケーションの教材

単語の意味と用法を増やそう —基本動詞と相性のいい語 (true friends って) が大切—		
単語	意味	相性のいい単語
born	be born 生まれる	was
care	気にする, 関心をもつ	(前置詞)
explain	…だと説明する	
give	give ... a call …に電話する 与える	call
go	go to (ある状態に) なる, 至る	
have	(病気に) かかっている, …が痛む	
hurt	痛みを感じさせる, 痛む	
injure	…を傷つける	
keep	(家畜・ペット) を飼う	dog
make	(人・物を) …にする …をする	(用例)
mean	…を意味する …のつもりで言う, …を指して言う	
pass	…を手渡す, 回す (時間が) 経過する	
play	遊ぶ する (…の役) を演じる	

ロケーションの指導教材である。語彙は、検定教科書指導書付属の単語リストから基本動詞を選んだ。指導目標は、動詞の多義性に気付き、それらの語の共起語を知ることとした。語彙の選択にあたっては、定期試験の範囲の語彙を選ぶなど動機づけのための工夫をしたり、生徒にとってなじみ深い動詞(例えば、play)や動詞を含むコロケーション、特にmakeをはじめとする軽動詞などを取り上げた。

#### <指導方法>

授業では、動詞(句)の解説あるいは辞書を使いながら表を埋めていく。例えば、この例では、bornのtrue friend(相性のいい語)としてwasがあらかじめ与えられている。wasは母語話者が最もよく使うbornの共起語であることを解説し、コロケーションの共起頻度に関心向けさせ、自然な英語フレーズを強調し、意識させた。また、giveとの共起名詞で、既習語callも載せておいた。名詞callを示し、語彙の品詞の多様性に触れる機会とした。さらに、この教材では、紙辞書を引ながらの学習に

おいては、care forやcare aboutの成句や用例を生徒自らが見出し語careの項目から発見させる。指名された生徒が見つけたcare aboutの用例を全員で音読させたりした。

教材例7(図10)は、形容詞と名詞のコロケーションを整理する教材である。この教材の作成手順は、指導書付属データベース(2, 3年生分)を基にコンコーダンサーを使って品詞別の頻度を算出し、形容詞、決定詞を抽出後、リスト化した。

教材例8(図11)では、英検問題の会話文を使って、コロケーションを強調しながら解説し、音読練習をする。ここでは、動詞句だけではなく、形容詞と名詞あるいは、軽動詞と名詞(例、made a guess)の共起パターン(例、bad accident)やgo get, I'm home.のような慣用表現、定型表現を語の固まりとして教えた。

▶ 図10：教材例7：「形容詞＋名詞」宿題

*「真夏の暑い・熱うい Summer Homework!!!*

形容詞のマスターの秘訣は名詞との組み合わせで覚えて・使ってみることです！ある形容詞やその仲間の語の前や後にはどんな名詞がくるのでしょうか？英和辞典を引いて、その例文から法則を見つけよう。そして、「JE 表現ノート」に例文などを書きとめておきましょう。例えば、many を辞書で引いて、「た」を見出しにする、そして「たくさん」と書く。でも「たくさん」と言う意味の英語表現はたくさんある。a lot of も同じページに書いておこう。下の単語は教科書に出てくる重要語ばかりです。( )内の数字は出てくる回数。

重要語	頻度	重要語	頻度	重要語	頻度
many	( 27 )	well	( 11 )	famous	( 6 )
happy	( 17 )	young	( 10 )	other	( 6 )
good	( 16 )	beautiful	( 9 )	wonderful	( 6 )
new	( 16 )	another	( 8 )	different	( 5 )
right	( 16 )	hard	( 8 )	few	( 5 )
much	( 15 )	little	( 7 )	hungry	( 5 )
near	( 15 )	more	( 7 )	sad	( 5 )
big	( 13 )	small	( 7 )	far	( 4 )

▶ 図11：教材例8：会話文を活用した教材例(続かない会話)

続かない会話

1 A: You should avoid the freeway, Jim. There was a **bad accident** there this morning.  
B: OK. I'll take the local streets instead.

2 A: I'm going to the station now.  
B: Hold on one moment while I **go get** my bags. I'll walk with you.

3 A: Nancy, we should really get together soon and **have lunch**.  
B: I'd love to, Jiro. I'll be free all next weekend.

4 A: Do I need to **put down** my address on the form, too?  
B: Yes, please. And I also need a copy of your driver's license.

5 A: Do you know **the answer to** this question on our homework?  
B: No, I don't. I just **made a guess**.

6 A: Hi, Mom. **I'm home!**  
B: Hi, Alex. How was soccer practice?

7 A: What's for dinner, Mom? I'm really hungry.  
B: Well, I've **made** some **salad**. What would you like with it?

得状況、英語能力判定テストのスコア)、英語学習に関する質問紙調査、英作文データ、各々の分析結果を報告する。なお、データは限られた被験者を対象とした授業実践から得たものであり、また、被験者が安定していないため、推測統計量を用いた分析はせず、一部を除き、基本統計量のみによる分析を行った。

#### 4.1 英語力の検証

まず、英語力について検証する。英検取得状況と『英語能力判定テスト』(英検)を使って被験者の英語力を分析した。

##### 4.1.1 英検取得状況

被験者の英語力を英検取得級から検証する。1年次のほぼ終了時(2月)、実践開始4か月後(7月)、実践終了時(翌年2月)の合格者数(累計)を表1にまとめた。この数値を見ると、確実に英検合格者が増加しており、英語力が伸長していることがわかる。

■ 表1：英検取得者数(累計)

	2008年	2008年	2009年
	2月	7月	2月
準2級	0	1	5
3級	1	20	31
4級	15	30	49
5級	6	0	6

## 4 データ分析とその考察

収集した4種類のデータ、すなわち、客観テストによって測定可能な英語力に関するデータ(英検取

#### 4.1.2 『英語能力判定テスト』による検証

被験者の英語力を『英語能力判定テスト』のスコアで見ると(表2)。開始時(4月)と9か月後(12月)に実施した同テストを2回とも受験した29名について分析した。平均値は293.0から336.8で43.8ポイントの上昇が認められる。両側のt検定を行った結果、4月と12月の差は有意であった( $t(28) = 7.32$ )  $p < 0.01$ 。また、4月のテストでもスコアの散らばりが大きかったが、12月ではさらに拡大している。

■表2：英語能力判定テストのスコア比較

	4月	12月
平均値	293.0	336.8
標準偏差	47.1	51.4

N = 29

スコアを低い方から高い方に順に12段階に区分し、度数分布を見ると(図12)、4月はレベル6(英検4級程度)が10名で最も多かった。そして、折れ線が示すように、12月の時点ではレベル9(英検3級程度)、レベル12(準2級程度)の度数が増加している。これにより、標準偏差の値の上昇は、上位者の増加が一因と解釈できる。また、12月のテストではレベル1の1名が消失し、集団の最低レベルは5となった。さらに、12月では、レベル6を中心とした山とレベル9(英検3級程度)から12の集団があり、レベル8を分岐点として二極化現象が見られる。極めて限られた小さなサンプルであるが、上記の英検取得状況も考慮して検討すると、週7時間の

授業を受けても、中学2年12月の段階では、英検3級のハードルは高く、少なくとも2年終了時まで待つ必要があるということかもしれない。

#### 4.2 質問紙調査(事後)

質問紙による事後調査では、英語および英語学習への興味・態度や辞書使用に関する項目を設け、選択式で回答を求めた。また、選択回答だけでは読み取りにくい意識をとらえるために自由記述の回答も求めた。選択式調査の結果は、回答と英検取得級別にクロス集計をした。

#### 英語および英語学習に関する質問

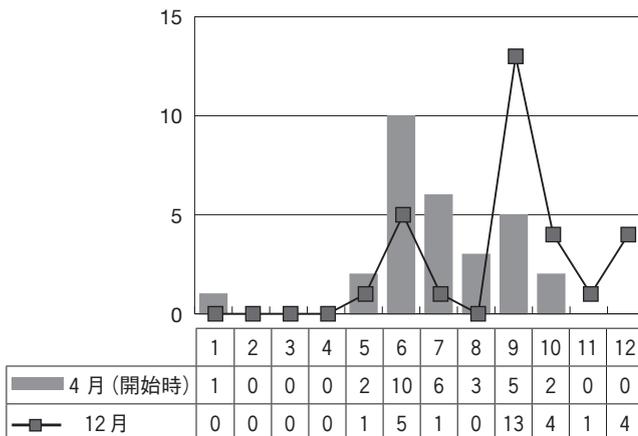
##### 情意領域(表3)

英語・英語学習に対する興味・態度の項目では「英語に興味がある」(Q1/有効回答数22)、「英語ができるようになりたい」(Q2/有効回答数23)が同様の傾向であった。すなわち、肯定的回答が18名(80%)で、否定的回答は4、5名(20%)である。英検取得級別に見ると、上位級の被験者はQ1、Q2共にすべてが肯定的にとらえている。なお、この傾向は、講座を担当する複数の授業者の観察報告に基づく被験者の授業中の学習や活動の態度傾向と合致する。

##### 技能領域に対する意識(図13・表4)

技能領域(4技能)に対する意識を問う項目では、取得級によって傾向が異なる。準2級では、読むこと(5)、3級以下では、「書くこと」(5)の回答が最も多かった。また、3級では、「読む」と「話す」

▶ 図12：判定テストのスコア分布

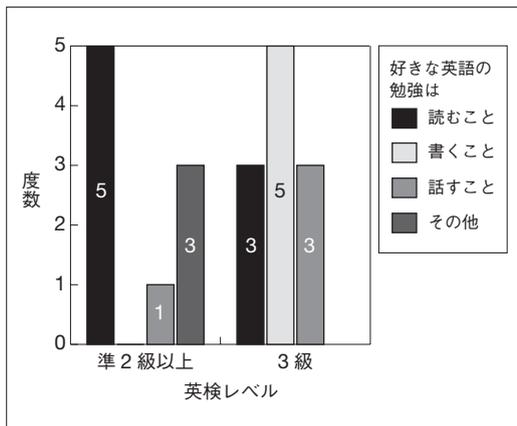


■ 表3：英語の興味・関心

英検取得級		Q1：英語に興味がある				Q2：英語ができるようになりたい			
		ない	あまりない	まあある	とてもある	別に	まあ	なりたいたい	絶対なりたいたい
英検取得級	準2級以上	0	0	6	4	0	0	6	5
	3級以下	2	2	8	0	1	4	5	2
合計		2	2	14	4	1	4	11	7

が同数(3)であった。「その他」が3級(0)と準2級(3)では異なる。興味深い結果である。上級者の方が学習志向に広がりがあるのかもしれない。なお、「聞くこと」はともに0であった。

▶ 図13：好きな英語の学習



得意になりたい英語は、事前調査の結果と同様に、「話すこと」(11)と「書くこと」(5)で、表現志向(計16)である(表4)。(有効回答数20〈内訳 準2級以上：10 3級：10〉)

■ 表4：得意になりたい英語

英検取得級		得意になりたい英語は				合計
		聞く	話す	書く	読む	
英検取得級	準2級以上	3	6	1	0	10
	3級	0	5	4	1	10
合計		3	11	5	1	20

辞書使用頻度と英検取得級との関係(表5)

英検取得級によって辞書の使用頻度の認識は異なるのかを調べてみると、肯定的回答の数は同じだが、準2級取得者では「よく引く」(4)が相対的に多い。事前調査と比べると、サンプル数が大きく異なるが、割合としてはやや増えている。(有効回答数23〈内訳 準2級以上：11 3級：12〉)

■ 表5：辞書使用頻度のクロス集計表

英検取得級		辞書を引きますか				合計
		持っているだけ	あまり引かない	ときどき	よく引く	
英検取得級	準2級以上	0	2	5	4	11
	3級以下	1	2	8	1	12
合計		1	4	13	5	23

辞書使用に関する技能項目の比較(表6)

辞書使用にあたって、特に検索する項目について比較すると、事前事後ともに、綴りの確認と語義検索が半数以上である。また、ごくわずかな変化であるが、事後調査においては新たに「英文」(1)と「熟語」(3)が加わっている。(有効回答数17)

■ 表6：辞書検索項目のクロス集計表

		事後					合計
		品詞	発音記号	英文	熟語	綴り・訳語	
事前	品詞	0	0	0	1	0	1
	発音記号	0	2	0	0	1	3
	綴り・訳語	1	0	1	2	9	13
合計		1	2	1	3	10	17

辞書使用に関する自由記述回答

辞書使用に関する自由記述の内容をまとめると、用例、例文、用法、イディオムといった語義検索以外の言葉も見られる。以下に記述内容を列挙する。表現・字句・下線は回答のままである。

- ・ 単語を調べる。その他の使い方を調べる。

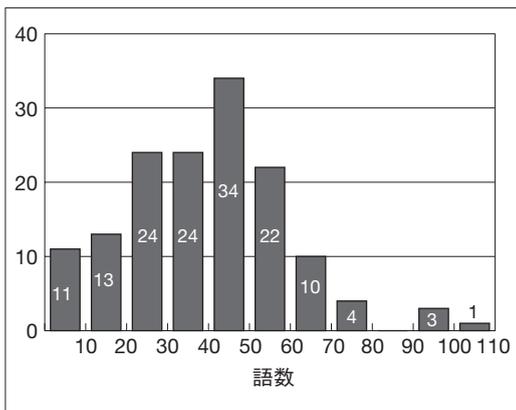
- ・ 分からない単語があったら引く。意味, 例文を見る (使い方を学ぶ)
- ・ スペル, 意味を調べる, たまに例文とか
- ・ つづりや和訳を調べる, 用例を見る (眺める)
- ・ 英作文を書くとき, 英語で意味の分からないとき
- ・ 分からない単語が出てきた時, 調べてノートに書く (ここ重要)
- ・ 和英で引いた語の用法が正しいか確認
- ・ 単語のスペルと訳語, イディオムを調べる

### 4.3 自由英作文の総語数と語彙分析

#### 4.3.1 自由英作文の総語数

作文データの書き起こしの後, 語彙分析ソフト (WordSmith Tool ver.4.0) で使用語彙を計量した。電子化した146サンプルについて, 語数を算出すると, 延べ語5,405語, 異なり語1,039語 (ただし, 日本語を含む) であった。語数平均は, 延べ語数39語, 異なり語数26語であった。延べ語数の分布を見ると, 1サンプル当たりの語数の範囲は0語から122語であった。約100件が20語から60語に集中している。中でも40語から50語が最も多い。また, 10語以下が11件で, 90語以上が4件あった (図14)。特に, 語数が多い作文には日本語も多く含むケースがある。これは英作文能力や英語力に加えて, 文章を書き続けようとする表現意欲の現れととらえるべきだろう。

▶ 図14: 総語数の分布図



〈作文例1: 平均的な語数の例〉

Urashima Taro was very sad. He cry every day. He didn't eat anything. One day he found misterious box. He opened the box. その瞬間,

he retured もとの world. But he losted 記憶. (延べ39語)

〈作文例2: 語数が多い例〉

Urashima Taro was very shocked. But he (is?) 死ぬまで生きた. And he married a old woman. He tell many people his 冒険. Many people 後まで語りついた. he was very happy. But he 困った. His wife was 先に死んでしまった. He was very sad. Then he went to sea again, and he met 亀. 亀 took Urashima to 竜宮城. He hoped to stay 竜宮城. But Otohime-sama said "No". その時! Urashima は夢からさめた. 今までののは全て夢だったのだ!!! (延べ122語)

(作文例は原文のまま)

#### 4.3.2 語彙頻度集計 (「朝食」の例)

「朝食」作文 (計60サンプル) の英語および日本語の使用語彙の頻度を集計し, リスト化した (表7)。上位10語を見ると, まず, 英語語彙では。上位3語の I (245), and (129), have (113) はサンプル数に比してかなり高頻度で出現しており, 多くの作文で繰り返し使われていることがわかる。morning (68), rice (68), bread (72) は, 作文の話題を反映している。bread (72) と rice (68) では, bread がやや優勢である。今どきの中学2生にはパン派の方が多いのかもしれない。and (129), in

■ 表7: 自由英作文の使用語彙頻度表

頻度順位	英語語彙		日本語語彙		
	頻度	語彙	頻度	語彙	
1	245	I	1	17	おいしい
2	129	and	2	10	味噌汁
3	113	have	3	10	お味噌汁
4	88	like	4	9	ヨーグルト
5	72	bread	5	9	だから
6	68	rice	6	7	目玉焼き
7	68	morning	7	6	スープ
8	60	in	8	4	なぜなら
9	59	the	9	4	デリシャス, 食べられる, 紅茶, を
10	53	usually	10	3	フルーツ, は, と, おいしいくない, miso

(60), the (59) といった機能語も上位にランクインしている。ただし, the が9位にきているのは, やや少ない。また, to が10位以内には出てこない。中2の作文では, 定冠詞, to (前置詞・不定詞) は出現しにくいのだろう。

次に, 動詞は have と like のみがランクしている。特に, have が極めて高頻度である点は, 前掲のモデル文 (3.3.2参照) の影響と推測される。一方, 日本語語彙を見ると, 1から3位の「おいしい」(17)「(お)味噌汁」(各10)はモデル文でも「おいしい」, 「お味噌汁」となっている。「ヨーグルト」(9), 「目玉焼き」(7), 「スープ」(6)は, 「朝食」作文では, 必要な未知語であるようだ。「なぜなら」(4)は, 中2の段階では, 十分に英語の表現語彙にはなっていない。「を」「は」「と」といった助詞が出現するあたりは, いまだにこの段階では, 主語, 目的語, 基本接続詞や前置詞が定着していないことを表す。

#### 4.4 自由英作文に見られる単語連鎖

##### 「朝食」作文の単語連鎖とモデル文

ここでは, 「朝食」作文に出現した3語連鎖を調べてみる。連鎖抽出には AntConc のクラスター機能を使った。以下, 括弧内に出現した粗頻度を示す。まず, 作文サンプルの3語連鎖(表8)の第1位は in the morning (57) で, I usually have (50), I don't like (30) と続く。ここで, in the morning について詳細に見る。上記の語彙頻度リスト(表7)では in の頻度は60であることから in the morning 以外の in は頻度3しかない。in の使いこなしができていないことがわかる。次に, I usually

■ 表8: 3語連鎖の頻度表

頻度順位	頻度	3語連鎖
1	57	in the morning
2	50	I usually have
3	30	I don't like
4	26	bread and milk
5	26	have bread and
6	23	have rice and
7	22	usually have rice
8	21	usually have bread
9	18	and in the
10	16	But I don't
11	16	I like it

have (50) に着目すると, usually have の2語連鎖は, 7位と8位にもある。さらに, have に目を向けてみると, 3語連鎖では, モデル文と同じように have bread and (26), have rice and (23), usually have rice (22), usually have bread (21) の形で使われている。

次に, 第3位の I don't like (30) の3語連鎖に注目しよう。動詞 like は単独で頻度88であったので, それ以外の連鎖は58となる。like という動詞は多くの語と共起する可能性がある中で, I don't like の3語連鎖はかなりの頻度で出現している。

ここでモデル文の影響が考えられるので, モデル文とサンプルの単語連鎖を比較検証する。表9のように, 146件の作文と4種類のモデル文から別々に単語連鎖のリストを作成した。モデル文には I don't like が与えられている。そして, 60サンプルの I don't like の総頻度は32である。「朝食」作文における I don't like の出現数は30である, したがって, 2例を除いて I don't like という連鎖は, 「朝食」作文にのみ極端に出現していることがわかる。

■ 表9: 単語連鎖リスト(モデル文と作文)

モデル文	生徒の作文(出現数)
I don't	I don't (73)
in the morning	in the morning (57)
I usually have	I usually have (50)
don't like	don't like (32)
I don't like	I don't like (32)
don't have	don't have (28)
I don't have	I don't have (28)
bread and milk	bread and milk (26)
But I don't	But I don't (26)
have rice and	have rice and (21)

さらにモデル文との類似を見ると, in the morning (57) と bread and milk (26) の2つを除き, すべて文の述語動詞を含む文例である。また, bread and milk は, モデル文にはないが, この単語連鎖の前には, 多くの例が have (14) または like (4) が置かれている。このことから, 多くの対象者は, 英文の骨格となる述語動詞をまねていることが判明した。一方で, in the morning のように, 定着しやすいフレーズは模倣しやすいが, そうでないフレーズは参照しない。さらに, 部分的な模倣もある, 日

本語を含むコロケーションの例で、and (ヨーグルト) in the morning (5) などがある。このような部分借用ができる力は、上位者の特徴である。

さらに、作文の書き出しに着目する。AntConc の concordance plot の機能を使うと特定のフレーズ出現箇所がわかる。その分析結果によると、「朝食」作文の書き始めは60のうち50が I usually have であった。これは、明らかにモデル文の影響である。

以上、紙幅の都合で、すべての結果を示すことはできないが、モデル文の影響が生徒の作文に現れる場合とそうでないことがある。本実践は「英借文」を積極的にとらえるもので、また、モデル文にあるコロケーションでも、借用しないものもあることは習得上大きな意味があるだろう。作文分析からは、コロケーションや談話レベルも含めた「英借文」指導の必要性と可能性が示唆される。

## 5 評価とその考察

最後に、英語力の変化やアンケート結果、生徒の授業評価、授業観察の結果を踏まえて、本実践の評価と考察を述べる。まず、英検取得状況と英語能力判定テストの結果から明らかになったように、客観テストによって測定できる英語力が、全体として著しく向上した。平均的には2年生の12月の段階で、中学修了相当の3級となり、実際の英検取得者は、2月には累計で36名が3級以上(内、準2級が5名)となった。これは、対象生徒が、正課で週4時間の英語の授業を受け、さらに土曜日に3時間の英語集中講座を受講したことの結果である。講座への参加状況が良好な生徒ほど英語力の伸張が著しいことから、英語に触れる時間の意義と生徒の学習意欲の大切さが確認された。

次に、自由記述の回答を列挙し、受講者の感想から本実践を振り返る。

- ・ 伝えたい事を英語で書くのは難しいと思いました。(3級/女子)
- ・ 文章力! がついたと思う。(3級/女子)
- ・ 学校の自習ノートに先生が教えてくれたことやってます。(3級/男子)
- ・ 辞書も作文もためになると思う。とくに作文は、苦手なのでいいと思った。(準2級/女子)
- ・ 少しは英語の表現方法などを覚えることがで

きた(3級/女子)

- ・ とても役に立つと思います。(準2級/男子)
- ・ 英語で作文を書こうとすると、より簡単に文章を書こうとすることができたのでとてもためになりました。(3級/女子)
- ・ 辞書引きが楽しい。(準2級/男子)

(コメントは原文のまま)

これらは自由回答欄にコメント書いてくれた生徒の生の声であり、集団の全体傾向を示すものではない。しかし、回答を見る限り、本実践の学習の意義を理解し、肯定的に受け止めている声が多かったことは授業者としてうれしい。本実践全般に対する印象評価として肯定的な態度を示している受講者は、同時に、出席率と活動意欲の高い生徒である。しかし、「むずかしかった」(3級/女子)、「作文はきらいです」(3級/女子)といった回答もある。こうした回答や作文分析の結果から、入門期も含めた段階的ライティング指導の重要性が示唆される。本実践では、限られた時間の中で、全体として、紙辞書を十分に使いこなし、完全に活用するところまでは至らなかった。辞書や語彙指導もまたライティング指導と同様に、系統的段階指導が大切である。

本実践を通じて多くの生徒が、辞書やコロケーション、英作文に興味を持つきっかけとなったことは確かである。生涯学習としての中学校教育という観点から、生涯にわたって辞書活用しながら自立的学びができるよう、今、基礎基本を大切に、机に向かってほしい。

## 6 おわりに—新学習指導要領実施に向けて—

本報告の試みは、ある中学校の課外講座における1年間の実践研究である。平成24年度から、英語の授業は週1時間増える。大切なプラス1時間を、従来どおり、教科書を買順に進めていく指導法の延長に使うこともできる。しかし、必修単語数が現行の900語から1200語に300語増えることを機会に、中学生が願うような英語で伝える力を育てるために、コロケーション重視の語彙指導、「40語(平均語数)から始める自由英借文」、ノートに写す紙辞書活用の時間にすることもできる。

## 謝 辞

このような機会を与えてくださった(財)日本英語検定協会および選考委員の先生方に感謝申し上げます。とりわけ、専門委員の小池生夫先生と羽鳥博愛先生には温かい励ましのお言葉や貴重なアドバイスを頂戴しました。厚く御礼申し上げます。また、投野由紀夫先生(東京外国語大学)にはコーパス処

理にかかわるご協力をいただきました。後上雅士先生(渋谷教育学園)には本報告書作成にあたってご助言をいただきました。最後に、小野博先生(メディア教育開発センター)をはじめとして、英語講座の運営、指導にかかわったすべての皆様に御礼申し上げます。

## 参考文献(\*は引用文献)

- \* Firth, J.R. (1957). *Paper in Linguistics 1934-1951*. London: Oxford University Press.
- \* 深谷圭助.(2006).『7歳から辞書を引いて頭をきたえる』. 東京: すばる舎.
- グレンジャー, S.(編著)(船城道雄・望月通子訳)(2008).『英語学習者コーパス入門: SLA とコーパス言語学の出会』. 東京: 研究社.(Granger, S. (ed.).(1998). *Learner English on Computer*. Harlow: Longman.)
- \* 日台滋之.(2009).『中学 英語辞書の使い方ハンドブック』. 東京: 明治図書.
- \* 金谷憲・谷口幸夫編・小林昭江著.(1994).『英語教師の四十八手 6 ライティングの指導』. 東京: 研究社.
- \* Laurence. A. (2007). AntConc version3.2.1w [http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/antconc\\_index.html](http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/antconc_index.html)
- \* 松野和子・杉浦正利.(2006).「コロケーションの定義—コロケーションの概念と判定基準に関する考察—」.(杉浦正利(代表)『なぜ英語母語話者は英語学習者が話すのを聞いてすぐに母語話者でないとわかるのか』. 平成13, 14, 15年度 科学研究費補助(基盤研究(C)2) 研究成果報告書: 79-96).
- \* 文部省.(1998).『中学校学習指導要領』(平成10年12月14日文部省告示第176号). 大蔵省印刷局.
- \* Pawley, A. and F.H. Syder. (1983). Two puzzles for linguistic theory; Nativelike selection and nativelike fluency. In J.C. Richards and R.W. Schmidt (Eds.), *Language and communication*. New York: Longman., pp.191-226.
- \* Scott M. (2004). WordSmith Tool ver.4.0. <http://www.lexically.net/wordsmith/version5/index.html>
- \* Sinclair, J.(1991). *Corpus, Concordance, Collocation*. Oxford: Oxford University Press.
- \* 高田哲朗.(2006).「語彙を増やす指導」.(門田修平・池村大一郎編著.(2006).『英語語彙指導ハンドブック』. p.114. 東京: 大修館書店.)
- \* 投野由紀夫(編著).(2007a).『日本人中高生一万人の英語コーパス“JEFLL Corpus”—中高生が書く英文の実態とその分析—』. 東京: 小学館.
- \* 投野由紀夫.(2007b). The JEFELL Corpus Project. <http://jefll.corpuscobo.net/>
- 投野由紀夫編.(2008).『エースクラウン英和辞典』. 東京: 三省堂.
- \* 内田富男.(2008).「助動詞から語彙・文法習得に迫る」.『英語教育』10月号第57巻第7号: 53-55.
- \* Wolter, B. (2006). Lexical network structures and L2 vocabulary acquisition: The roll of L1 lexical/conceptual knowledge. *Applied Linguistics*, 27/4: 741-747.